

日経 STOCK リーグ第 8 回

The company of Terrestrial resource

筑波大学附属駒場高等学校二年



ID : SL801646

0. 購入銘柄一覧

コード	銘柄名	上場市場	投資金額（円）
1924	パナホーム	東証 1 部	232, 848
3402	東レ	東証 1 部	232, 960
4004	昭和電工	東証 1 部	247, 536
4043	トクヤマ	東証 1 部	220, 605
4186	東京応化工業	東証 1 部	229, 540
4204	積水化学工業	東証 1 部	293, 346
5110	住友ゴム工業	東証 1 部	235, 440
5333	日本碍子	東証 1 部	259, 160
5486	日立金属	東証 1 部	238, 836
5714	DOWAホールディングス	東証 1 部	230, 175
6361	荏原製作所	東証 1 部	225, 600
6472	NTN	東証 1 部	253, 431
6674	ジーエス・ユアサ コーポレーション	東証 1 部	270, 220
6752	松下電器産業	東証 1 部	274, 905
6759	NEC トーキン	東証 1 部	290, 826
6841	横河電機	東証 1 部	254, 616
6995	東海理化電機製作所	東証 1 部	237, 140
7282	豊田合成	東証 1 部	222, 320
8015	豊田通商	東証 1 部	231, 120
8053	住友商事	東証 1 部	249, 150
合計投資金額			4, 929, 774

1. テーマ設定理由

Stage 1-投資の意義・目的

株は企業が社会からお金を集めるための手段である。株を購入する、即ち投資を行うと、企業にお金が入る。企業はお金があると成長し、企業が成長すると、社会が豊かになる。つまり、投資は社会発展に欠かせない要素であると言える。それ故に、安定した社会発展のために、投資は長期的な視点で行うべきなのだ。また、現代では投資は貯金に代わる資産運用の手段としても利用されており、個人が投資先を決定するために、企業に注目するようになった。その結果、社会の厳しい監視の下、企業のモラルは向上した。さらに、企業は個人投資家に対する IR 情報の開示や環境報告書の作成などといった、説明責任を果たすことが求められている。最近では、ヘッジファンドによる M&A などにより、「投資=自己利益の追求」

というマイナスイメージを持つ人もいる。しかし実際は、個人が社会発展に参加する媒体となりえるものなのである。

そこで私達は、良い企業に投資することでより良い社会にするという、社会に対する責任を果たすための手段としての投資を目標にした。つまり、お金を儲けるためだけでなく、投資先の企業を応援する気持ちを込めて投資を行うことを決意した。

Stage 2-テーマの設定

班内で話し合った結果、前述の投資哲学に則り、社会貢献に繋がるであろう事業に投資しようと考えた。各自の知識や身近な経験、日々のニュースを基に、班内で意見を出し合った。その結果、①環境・エネルギー、②アジア・中国、③グローバル企業、④IT産業、⑤福祉・介護、⑥食品、⑦教育、の7つのテーマが候補に挙がった。以下に、投資する際の長所と短所になると考えた点を大まかに述べる。

① 環境・エネルギー

長所 社会全体のこの分野に対する意識が高まっており、技術革新も進んでいる。確かなニーズもある。

短所 技術の実用化に難がある。

② アジア・中国

長所 経済成長が著しい。また、オリンピックも近く開かれるため、インフラの整備が急ピッチで進んでいる。さらに、人口が多いので、市場規模が大きい。

短所 利益追求一辺倒になりがちで、まだ環境や倫理的な部分への配慮に不十分な点が多い。

③ グローバル企業

長所 それぞれの文化に適合した体制を作ることで、企業を持続させた実績がある。また、大規模なので一時的、局地的な不況に強く、経営基盤も確立している。

短所 成長の余地が小さい。

④ IT産業

長所 初期投資が少なくて済むので、中小企業が活躍し易い。

短所 社会が十分にIT化された現在では、成長の余地が小さい。

⑤ 福祉・介護

長所 現在は少子高齢社会であり、この傾向は間違いなく年々強まるものなので、今後の需要の大幅な増加が見込まれる。

短所 上場企業が少ない。また、利益重視の風潮が見られ、労働環境の不整備といった問題が表面化している。

⑥ 食品（特に水産養殖業）

長所 人口増加への対策として、養殖業の技術革新が見込まれる。

短所 日本企業のコスト面における競争力が低く、現状では輸入に頼る割合が大きい。食品偽装による食への不安。

⑦ 教育

長所 私達にとって身近な問題で、話題性もある。業界の再編によるビジネスチャンスの発生が見込まれる。

短所 上場企業が少ない。市場が飽和状態に近い。

これらのテーマについてそれぞれ詳しく調べた結果、環境・エネルギーの成長性に魅力を感じた。というのも、全ての産業が注目する必要のある分野なので、市場の規模が非常に大きくなるのが予想され、また、様々な分野に渡っているため、投資のリスク分散にもつながるからである。さらに、日本企業の高い技術力を活かして、黎明期の環境・エネルギー分野を引っ張って行くことも期待される。それに加えて、私達の学校は都心に近く、排気ガス等の影響で喘息を患っている生徒もかなりおり、環境汚染に切実な危機感を抱いていた。こういった理由から、このテーマで進めることにした。

まず、環境技術関連の事業を展開している企業をリストアップしてみたところ、企業の数膨大なものとなったので、環境・エネルギーを、クリーンエネルギー、リサイクル、土壌汚染、大気汚染、屋上緑化、排出権取引の各分野に分けて、班員に割り当てた。それから、各自で書籍等を用いて、各分野の現状や技術的発展性、関連企業について調べた。その結果を各自が班内で発表し、それについて全員で討論するという形式で、各分野への理解を深めた（ここでのクリーンエネルギーは、太陽光、風力、波力、地熱、水素、廃棄物等を用いた、環境に悪影響を与えないで生産可能なエネルギーのことを指す）。市場規模が小さかったり、技術の発展性が不透明だったりする分野を取り除き、クリーンエネルギー、リサイクル、排出権取引の3つにテーマを絞った。しかし、リサイクル分野は上場企業が少なく、排出権取引分野はそれ自体をビジネスとして扱っている上場企業が存在しないという点に不安も抱いた。とりあえず、エネルギーに焦点を絞って、評価の基準を設けてみた。

私達の着眼点が偏っていないかを確認していただくために、専門家の方にお話を伺うことにした。環境問題について学ぶ際に使用した書籍を執筆なさっていた、エコビジネスネットワークの安西氏と足立氏に取材を依頼した。こちらでは、専門家の視点から、企業の技術力を正当に評価するための着眼点や、環境に関する最新の話題について伺った。また、日本には石油や石炭、天然ガスといった地下資源が乏しいので、資源を海外からの輸入に依存する不安定さを払拭するためには、クリーンエネルギーを始めとする地上資源の活用が必要不可欠であるというお話も伺った。我々はそのお話から、クリーンエネルギーは環境に優しいだけでなく、今後の日本の経済発展にも欠かせないものであるという確信を得た。また、現在の企業が地下資源の消費量を減らすことにばかり注力している点にも疑問を感じた。そもそも地下資源を使用している時点で環境に多大な悪影響を与えており、環境問題の本質的な解決には、地下資源から地上資源への転換を可能にする技術の開発が必要であるにも関わらず、それを避けて問題を先延ばしにしているように思えたからだ。

上記を踏まえ、地上資源の活用にテーマを絞った。具体的に挙げると、太陽光発電、風力発電、波力発電、地熱発電、水素燃料、リサイクル（既製品も再利用可能である以上、地上資源と捉えた）、次世代電池である。

Stage 3-企業の選択

上記のそれぞれの分野に関する書籍等を読み漁り、関連企業 250 社余りをリストアップした。

2. 選定基準

以下の評価項目は、専門家の意見や書籍、インターネット等に触れて学んだことを基に作成した。

1. 業績

業績から企業の体力と優良性が読み取れると考えたので、投資を安心して行えるかを測る目安とした。また、独自の技術を持っていても、実用化して市場を形成するためには資金がいるため、業績が好調であることは、新事業により積極的に取り組むための必要条件であると考えた。

そこで、私達は各企業の「会社四季報」と「NIKKEI 会社情報」の業績欄を参照し、5段階で評価した。以下に具体的な基準を挙げる。

- | | |
|---|-------------------------|
| 5 | バランス良く増収増益を続けている。 |
| 4 | 5より伸びが小さい。 |
| 3 | 増収増益であるが、増収率に比べて増益率が低い。 |
| 2 | 過去に減収減益の年がある。 |
| 1 | 直近2年で減収減益の年がある。 |

これらの基準で評価した理由は、増収増益は企業発展の基本であると考えたからだ。また、増収率に比べて増益率が低い場合は、企業が利益率の低い無駄な事業を続けていると見做し、評価を3とした。

2. 割安感

現在の株価が企業の実績に見合っているかどうかを判断するために用いた。「yahoo ファイナンス」に掲載されていた最新のデータを参照して、前期のPBRと来期のPER、今期と来期の営業利益の増収率を計算し、その値を基に判断した。

点数	PBR	PER	成長率
5	1倍以下	20倍以下	5%以上
5	1倍以下	20～40倍	15%以上
5	1～3倍	20～40倍	20%以上
4	1倍以下	20倍以下	5%以下
4	1倍以下	20～40倍	5～15%
4	1～3倍	20倍以下	15%以上
4	1～3倍	40倍以上	20%以上
4	3倍以上	30倍以下	20%以上
4	3倍以上	30～50倍	20%以上
4	3倍以上	50倍以上	30%以上
3	1倍以下	40倍以上	20%以上
3	1～3倍	20倍以下	5～15%
3	1～3倍	20～40倍	5～20%
3	1～3倍	40倍以上	10～20%
3	3倍以上	30倍以下	5～20%
3	3倍以上	30～50倍	10～20%
2	1倍以下	20～40倍	5%以下
2	1倍以下	40倍以上	5～20%
2	1～3倍	20倍以下	5%以下
2	3倍以上	50倍以上	20～30%
1	1倍以下	40倍以上	5%以下
1	1～3倍	20～40倍	5%以下
1	1～3倍	40倍以上	10%以下
1	3倍以上	30倍以下	5%以下
1	3倍以上	30～50倍	10%以下
1	3倍以上	50倍以上	20%以下

3. 広告

最初に述べたように、企業には個人に対しての説明責任があり、それを実行できているかどうか、個人の主観が入らないように5人で集まって判断した。

具体的には、各企業の環境報告書とホームページの見易さ、分かり易さ、情報量を5人で話し合い、それぞれ5段階で評価した。

4. 体制

新技術の開発や安定した経営をするためには、管理体制、取引会社の安定性、安定した大株主なども必要であると思ひ、より多角的に企業の安定性を測るために、この項目を導入した。

評価基準として、10個の項目A~Jを設定して、加点式で10点満点の点数を算出し、それを2で割ることで5段階に変換して評価を下した。

A 大株主が有名な大企業である

株主が安定することにより、敵対的買収のリスクを抑えることが出来ると考えた。

B 筆頭株主の割合が10~40%

筆頭株主の持ち株比率が多過ぎると、西武鉄道の例のように上場廃止の危険性もあるし、少な過ぎても経営が安定しないので、この値を設定した。

C 経営者がある程度株を所有している(15%以上は除く)

経営者の持ち株比率が高過ぎると会社が閉鎖的になってしまうし、比率が少なくても経営者の労働意欲が上がらず問題となるので、この値を設定した。

D 役員に同姓の人が含まれていない(同族経営でない)

同族経営では透明性に問題があると考えたので、同族経営でないかを簡単に見極めるために設定した。

E 証券会社、銀行が有名な所である(野村、日興、大和、UFJ、東京三菱、みずほ)

証券会社、銀行は会社の上場をサポートしている。その対応力を測るために設定した。

F 取引している証券会社が8社以上である

取引している証券会社が多いと、市場からの資金調達に積極的で、株式の流動性が高まり、株価が上がると予想される。

G 株主資本比率が35~60%

株主資本比率が低すぎると、有利子負債が多いことになり安定性を欠くし、また、逆に多くても有効な資金運用が出来ていないと考えた。

H ROE、ROAが改善している

これらは企業が、投資に見合う利益を得ようと努力しているかどうかを測るために設定した。

I ROEが10以上でROAが5以上

これは、一般的に利益重視の経営ができている企業が達成すべき数値なので、設定した。

J 営業CF、現金同等物が増えている

万が一の時への対応には、現金の準備高が重要となると考えた。

5. 社会責任

企業というものは、ステークホルダーとの確固たる信頼関係があって、初めて成り立つものである。ステークホルダーに情報を積極的に公開し、ステークホルダーからの意見も取り入れるという、ステークホルダーとの双方向的な関係の構築は、企業の健全な経営に不可欠

であると考えたので、社会責任を果たしているかどうかを、評価基準の大きな柱の一つとして位置付けた。また、人類が直面している環境問題を解決するために、責任を持って取り組んでいるかどうかも、判断の材料とした。

そこで、社会責任を正当に評価するアドバイスをいただくために、日本での企業 CSR 評価のパイオニアであるパブリックリソースセンターのプログラムオフィサーを務める杉田教夫氏から、企業が果たしている社会的責任の度合いを評価することの難しさを教えていただいた。それは、全ての企業について実態を詳しく調べることは、調査対象が膨大な数に及んでしまうので物理的に不可能であるという問題だ。

そこで、私達はリストアップした 250 企業に一社ずつ問い合わせをし、環境報告書を発行している企業には郵送していただいた。ここで、発行していない企業については、私達の方法では評価不能であるし、社会責任の役割を十分に果たしていないと判断し、除外した。我々は企業を 87 社に絞ることで、実態に即した評価を下せたと自負している。

以下で各項目について言及する。なお、主観の影響を極力小さくするために、評価基準を具体的に定めた。各項目は段階的に 1 から 5 で、各企業の環境報告書及びホームページ等を精査した上で評価した。

A.	経営者の言葉で具体的に目標を示しているか
5	企業の環境報告書に対する姿勢（作成する理由、編集方針、重要事項など）を示している。
4	3 と 5 の中間。
3	5 の要素に対して軽く触れているくらい。
2	儀礼的な言葉だけで終わっている。中身を伴っていない。
1	経営者の言葉がない。

この質問は、経営者という責任ある立場から、自社の問題点と今後の目標を明らかにしているかどうかで、企業の誠実さと目標の実現性を測るために設けた。

B.	社会コミュニケーション活動を効果的にしているか
5	外部の意見を経営に反映している。
4	ステークホルダーと相互コミュニケーションを実践している。
3	自社の活動を多くの人々へ伝え、理解を促す活動を行っている。
2	説明責任を遂行している。
1	コミュニケーション活動をしていない。

この質問は、ステークホルダーとの信頼関係の重要性を認識し、外部の意見を聞くことで組織の閉鎖性を打破しようとしているかを測るために設けた。

C.	ネガティブインフォメーションを載せているか？
5	きちんとネガティブインフォメーションを公開し、それに対する取り組みと結果を詳しく説明している。また、今後の方針についても言及している。
4	きちんとネガティブインフォメーションを公開し、それに対する取り組みと結果を説明している。
3	ネガティブインフォメーションを個別に扱う記事がある。
2	ネガティブインフォメーションに軽く触れている。
1	ない

この質問は、自社の不都合な情報を公開し、経営改善の努力を示しているかどうかを測るために設けた。

D.	環境問題やCSRに取り組むための部署または担当者を置いているか。
5	専門担当部署がある。
4	専門ではないが担当部署があり専任者がいる。
3	専門ではないが担当部署があり兼任者がいる。
2	担当部署はないが、特別な委員会等がある。
1	ない。

この質問では、企業の環境問題解決に対する真剣さを測るために設けた。

E.	エネルギー削減の具体的目標の設定、達成状況はどうか。また、結果を分析しているか。
5	今までの達成状況を数値で把握し、自己評価ができています。それを、もとに具体的な数値で削減目標を定めています。その割合が比較的厳しい。設定した目標が達成出来ています。
4	今までの達成状況を数値で把握し、自己評価ができています。それを基にほとんど具体的な数値で削減目標を定めています。設定した目標が達成できています。
3	今までの達成状況を数値で把握し、自己評価ができています。大まかな削減目標を定めています。
2	いままでの達成状況を公開しています。
1	ない。

この質問は、口先だけでない明確な問題意識を持ち、実際に解決する行動力があるかを測るために設けた。

6. 技術

企業が社会に貢献出来る事業を展開するには、高い技術力を持っていないといけないと思ひ、また、独自の技術を保有していることは、企業の存続を支える重要な要素の1つであると考え、企業の能力を保有する技術によって評価することにした。

A. そもそも成長性のある市場であるか(市場の見極め方)? 加点制

- ・クリーンエネルギーを使用している。
- ・環境に意識が高い消費者(グリーンコンシューマー)への明確なアピールポイントがある。
- ・環境以外の観点からみても魅力的である。
- ・コストが既存のものと同様かそれ以下である。
- ・既存のものとの競争力がある

この質問は、注目した技術が実用化されたとき、その技術が必ずしも利益を生むわけではないと考えて設けた。

B. 市場に必要とされている技術が確立しているか(必要な技術の確立。技術に対してのニーズ。)

- 1 実用化されている。
 - 2 実用化のメドが立っている。
 - 3 技術自体は出来ている。
 - 4 技術が出来ていない。
- 必要とされている技術ならば1点追加。

この基準は、技術が実用段階に入っているかどうかを知り、投資の時期として適当かを測るために設けた。

C. 技術の必要性は継続的なものか。加点制。

- ・事業として年次ごとの見通しがたっている。
- ・対抗企業に対する意識がある。
- ・景気に左右されない
- ・代替物がしばらく生まれそうにない
- ・余計な買い替えを必要とせず、かつ適度なメンテナンスが必要なもの。

この質問は、新技術の必要性が継続し、一定期間は利益を生むものであるかを測るために設けた。

D. 事業計画書での扱われ方。

- 1 目次に掲載されている。
- 2 大々的に扱われている。
- 3 小見出しが付いている。
- 4 文面には出て来る。
- 5 扱われていない。

この基準は、企業が該当事業をどれだけ重要視しているかを測るために設けた。

E. 事業に取り組む基盤が固まっているか。 加点制

- ・ 資源の調達方法が明記されている。
- ・ 資金が十分に割り当てられている。
- ・ 職場環境が充実している。
- ・ 事業に必要なものが不足した際の対応策が整っている。
- ・ 社内監査システムが働いている。

この基準は、その事業の継続性を測るために設けた。また、その事業に今投資すべきかどうか測るために設定した。

7. 投資先の決定、金額分配

以上の6項目に関してそれぞれ5段階で点数をつけたが、最終的に投資先の企業を選択するにあたって、100点満点の点数で企業に点数に換算した。以下にその方法をあげる。企業にとって一番必要なものは「社会責任」、「技術」であると考え、それらの点をそれぞれ4、5倍にした。「広告」については、重要ではあるが、株価に対する影響は、ほかの項目よりも若干少ないので、この項目は点を2倍し、他の3項目に関しては、それぞれ3倍した。

$$\begin{aligned} & (\text{業績の5段階評価} \times 3) + (\text{割安感の5段階評価} \times 3) + (\text{広告の5段階評価} \times 2) \\ & + (\text{体制の5段階評価} \times 3) + (\text{社会責任の5段階評価} \times 4) + (\text{技術の5段階評価} \times 5) \\ & = \text{合計点 (MAX100点)} \end{aligned}$$

以下に、評価した企業の得点と順位を載せる。

順位	会社名	業績	割安感	広告	体制	社会責任	技術	合計
1	積水化学工業	12	15	9	7.5	17.6	19	80.1
2	NEC トーキン	12	15	10	6	16.8	20	79.8
3	松下電器産業	12	12	10	7.5	17.6	19	78.1
4	ジーエス・ユアサコ 一ポレーション	12	15	9	6	13.6	22	77.6
5	日本碍子	15	12	7	12	13.6	17	76.6
6	横河電機	15	15	8	9	12	17	76
7	NTN	15	9	9	4.5	14.4	24	75.9
8	住友商事	15	15	9	4.5	12	20	75.5
9	昭和電工	15	9	9	6	15.2	21	75.2
10	東海理化電機製作 所	15	15	6	9	14.4	15	74.4
11	日立金属グループ	12	6	10	7.5	16.8	22	74.3
12	住友ゴム	3	15	10	9	16	21	74
13	豊田通商	15	15	7	7.5	11.2	18	73.7
13	パナホーム	15	12	7	10.5	11.2	18	73.7
13	東レ	12	9	10	4.5	15.2	23	73.7
16	東京応化工業	12	12	9	4.5	16	20	73.5
17	DOWA ホールディ ングス	15	6	10	6	14.4	22	73.4
18	荏原製作所	6	15	8	7.5	14.4	22	72.9
19	豊田合成	6	15	10	7.5	11.2	23	72.7
20	トクヤマ	15	3	9	9	14.4	22	72.4
21	日本化薬	12	9	10	7.5	17.6	14	70.1
22	日本ゼオン	12	6	9	6	16.8	20	69.8
23	トヨタ自動車	15	6	8	7.5	15.2	18	69.7
24	明電舎	3	15	10	6	16	19	69
25	関西ペイント	12	15	6	7.5	11.2	17	68.7
26	ダイヘン	12	3	10	10.5	13.6	19	68.1
27	ダイキン工業	15	12	8	7.5	10.4	15	67.9
28	マツダ	6	6	10	9	17.6	19	67.6
29	アイシン精機	12	12	9	7.5	8	19	67.5
30	岩谷産業	12	9	7	4.5	13.6	21	67.1
31	三協・立山ホールデ ィングス	3	15	6	9	12	22	67

32	新日本石油	3	15	7	7.5	14.4	20	66.9
33	ヤマハ発動機	6	6	10	10.5	16	18	66.5
34	ホンダ	3	6	10	7.5	16.8	23	66.3
35	三菱重工業	6	6	9	6	15.2	24	66.2
36	ブリヂストン	3	9	10	7.5	15.2	21	65.7
37	大和ハウス工業	12	6	9	6	14.4	18	65.4
37	カネカ	3	9	10	9	14.4	20	65.4
39	東洋インキ製造	3	6	9	7.5	16.8	23	65.3
40	シャープ	12	3	10	6	11.2	23	65.2
41	不二サッシ	6	15	7	7.5	9.6	20	65.1
42	三菱ケミカルホールディングス	3	15	8	7.5	15.2	16	64.7
43	日立造船	3	9	8	6	14.4	24	64.4
44	三井ホーム	6	15	8	6	11.2	18	64.2
45	日本製鋼所	15	3	7	7.5	9.6	22	64.1
46	富士フィルム	3	15	9	9	12	16	64
47	三菱マテリアル	6	9	8	6	12.8	22	63.8
48	積水ハウス	6	9	8	7.5	15.2	18	63.7
49	日本製紙グループ本社	3	6	10	4.5	16.8	23	63.3
50	松下電工	6	9	8	9	11.2	20	63.2
50	ジェイ エフ イーホールディングス	3	9	9	9	15.2	18	63.2
52	NEC	3	15	7	6	16	16	63
52	三菱商事	12	6	10	6	8	21	63
54	日本化学工業	3	15	8	7.5	14.4	15	62.9
55	宇部興産	6	6	9	6	17.6	18	62.6
56	富士電機ホールディングス	6	6	8	9	12	20	61
57	五洋建設	3	15	8	4.5	11.2	19	60.7
57	住友大阪セメント	6	6	8	4.5	15.2	21	60.7
59	王子製紙	3	6	9	6	18.4	18	60.4
60	神戸製鋼所	3	6	9	4.5	13.6	24	60.1
61	凸版印刷	3	6	7	9	16	19	60
62	旭化成	6	6	7	7.5	13.6	19	59.1
62	ガイアックス	3	9	9	4.5	17.6	16	59.1
64	ユニチカ	3	15	8	7.5	10.4	15	58.9

64	ミサワホーム	3	6	10	7.5	14.4	18	58.9
66	三菱地所	12	3	10	4.5	16	13	58.5
67	三菱電機	15	3	8	4.5	8.8	19	58.3
68	帝人	3	9	6	6	16.8	17	57.8
69	第一工業製薬	6	6	8	4.5	15.2	18	57.7
70	京セラ	6	9	9	3	13.6	17	57.6
71	東洋紡	6	6	8	4.5	12.8	20	57.3
72	三井化学	3	6	8	6	16	17	56
73	IHI	6	15	7	3	7.2	17	55.2
74	新神戸電機	6	6	6	6	10.4	20	54.4
75	日立マクセル	3	6	8	6	12.8	18	53.8
75	中部電力	3	3	9	6	16.8	16	53.8
77	古河機械金属	6	6	8	4.5	12	16	52.5
78	ゼファー	15	9	6	4.5	5.6	12	52.1
79	良品計画	12	9	5	7.5	6.4	12	51.9
80	キューピー	3	9	9	7.5	8	15	51.5
81	エス・バイ・エル	3	3	8	6	12	19	51
82	スズキ	12	3	8	3	8.8	15	49.8
83	関東電化工業	6	6	7	4.5	10.4	15	48.9
	全体の平均	7.9879518	9.253012	8.4096386	6.7048193	13.561446	18.915663	64.83253

金額分配については、トップ 20 それぞれの企業の得点から全体の平均を引き、その数値の比率に応じて、投資金額が 500 万円になるように、分配した。

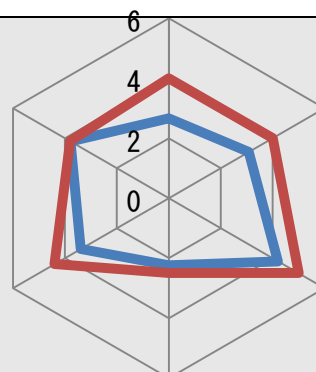
3. 評価結果

<p>0.会社名 (株価コード) 合計点</p> <table border="1"> <tr> <td>業績 × 3</td> <td>割安感 × 3</td> <td>広告 × 2</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>体制 × 3</td> <td>社会責任 × 4</td> <td>技術 × 5</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2	-	-	-	体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5	-	-	-	<p>青線：平均値 赤線：この企業の得点</p>
業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2											
-	-	-											
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5											
-	-	-											
<p>—企業に関する説明—</p>													
<p>1. 積水化学工業 (4204) 80.1 点</p> <table border="1"> <tr> <td>業績 × 3</td> <td>割安感 × 3</td> <td>広告 × 2</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>15</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>体制 × 3</td> <td>社会責任 × 4</td> <td>技術 × 5</td> </tr> <tr> <td>7.5</td> <td>17.6</td> <td>19</td> </tr> </table>	業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2	12	15	9	体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5	7.5	17.6	19	
業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2											
12	15	9											
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5											
7.5	17.6	19											
<p>住宅、環境ライフライン、高機能樹脂の3事業を軸としている。環境経営で先進的で、中国進出や自動車を重視している。住宅分野であるセキスイハイムでは、太陽光発電システムを搭載した家などを積極的に販売している。</p>													
<p>2. NEC トーキン (6759) 79.8 点</p> <table border="1"> <tr> <td>業績 × 3</td> <td>割安感 × 3</td> <td>広告 × 2</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>15</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>体制 × 3</td> <td>社会責任 × 4</td> <td>技術 × 5</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>16.8</td> <td>20</td> </tr> </table>	業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2	12	15	10	体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5	6	16.8	20	
業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2											
12	15	10											
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5											
6	16.8	20											
<p>素材型電子部品の大手。電池、ICタグなどの事業も展開している。環境に関する事業では、ほかの二次電池と比べ小型で軽量の、マンガン電極を用いたラミネート型リチウムイオン二次電池の研究に成功し、新しい市場を開拓している。</p>													

3、松下電器産業 (6752)

78.1 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
12	12	10
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
7.5	17.6	19

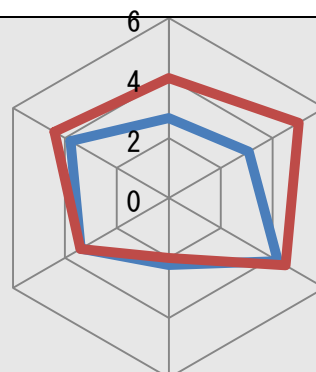


総合家電メーカーで業界首位。社会責任と環境対策の報告書を、2冊に分けて発行している。環境報告書は非常に見やすく情報量も多かった。不祥事への対応と再発防止対策についても、大きく取り上げていた。地上資源を利用した環境事業では、家庭用燃料電池ジェネレーションシステムなどの開発に着手している。

4、ジーエス・ユアサコーポレーション (6674)

77.6 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
12	15	9
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
6	13.6	22

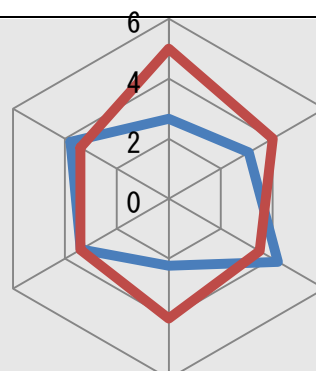


YUASAと日本電池が経営統合して出来た純粋持株会社。鉛蓄電池シェア国内トップ、世界2位である。自動車や産業用の大型リチウムイオン電池などの二次電池や、バッテリー充電器、太陽光発電システム（パワーコンディショナー）を開発、販売している。

5、日本硝子 (5333)

76.6 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	12	7
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
12	13.6	17

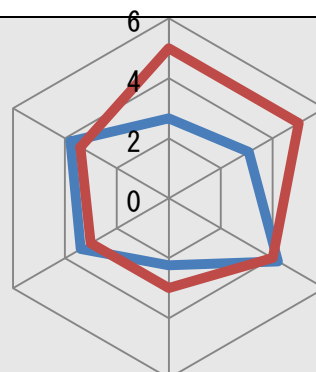


ガイシの分野で世界一のシェアを誇る。多角経営に乗り出しており、環境分野についても積極的に進出している。自然エネルギーで問題となっている資源の貯蔵についての対策として、NAS 電池貯蔵システムを開発し実用化できる段階まで、研究が進んでいる。クリーンエネルギーではないが、廃棄物の処理に対する分野についても強みを持つ。

6. 横河電機 (6841)

76.0 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	15	8
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
9	12	17

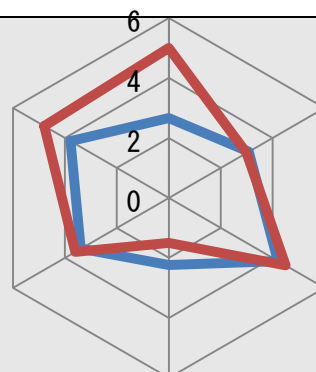


工業計器の首位。環境対策に対して、具体的な目標を設定し自己評価を下して、今後の計画を実践できそうであった。クリーンエネルギーを使用する際にも、重要な発電の無駄をなくすシステムの構築や、必要となる計器の製造をしている。

7. NTN (6472)

75.9 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	9	9
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
4.5	14.4	24

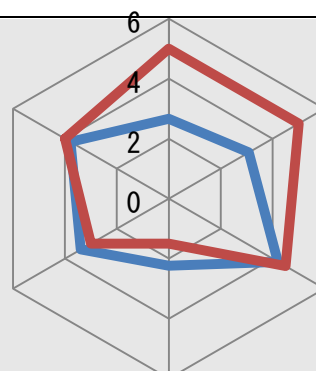


軸受け（ベアリング）大手3社の一角。自動車用等速ジョイント、アクスルユニットを世界戦略商品に発展している。風力発電にはかかせない軸受の高い技術を持ち、より長寿命で高速回転に強い製品をもっている。

8. 住友商事 (8053)

75.5 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	15	9
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
4.5	12	20

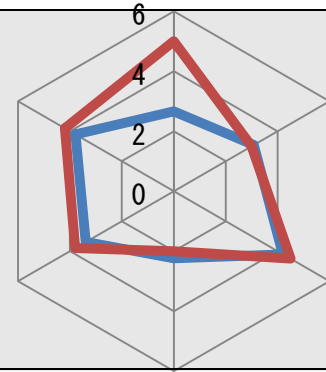


住友グループの中核企業で三菱商事、三井物産と並んで日本を代表する総合商社である。資源は銅に強みをもつ。CATV事業や都市再開発で独自展開をしている。インフラ事業部門において、クリーンエネルギーを利用した発電所建設を主導し、最近では茨城県の鹿嶋市に関東最大の商業用風力発電所を建設した。

9. 昭和電工 (4004)

75.2 点

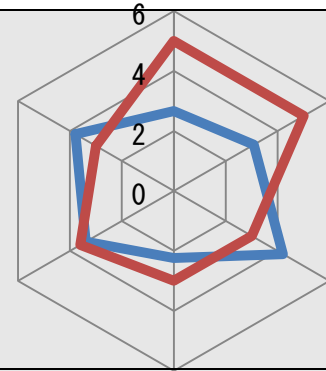
業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	9	9
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
6	15.2	21



旧・安田系の総合化学会社。アルミ、人造黒鉛電極に特色、ハードディスク外販首位である。人造黒鉛電極は鉄スクラップを溶解し、鉄鋼にリサイクルするための部材である。また、携帯用のリチウムイオン電池の外包剤でも世界一のシェアを誇る。

10. 東海理化電機製作所 (6995) 74.4 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	15	6
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
9	14.4	15

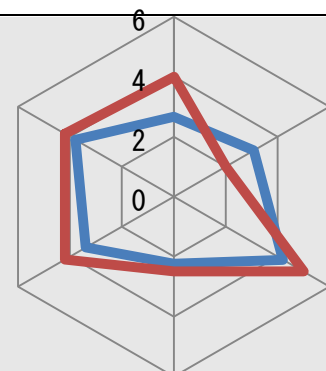


トヨタ系の自動車部品メーカー、スイッチ・ドアロック・シートベルト大手。環境対策について、「データファイル」という別の冊子があり、非常に具体的な数値をあげている。達成状況に関しても、良く達成していた。

11. 日立金属 (5486)

74.3 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
12	6	10
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
7.5	16.8	22

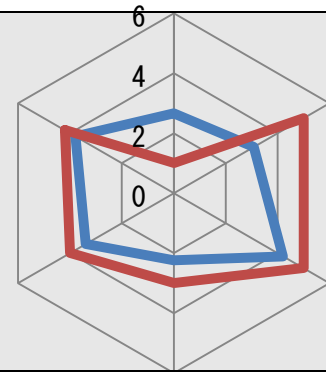


高級特殊鋼から世界首位級の磁性材まで高シェア品展開。自動車、IT、インフラ関連に注力している。薄肉化、大型化の進むシリコンセルの割れを防止、高出力の太陽電池に最適、環境に優しい鉛フリーはんだを採用といった特徴をもった太陽電池用の Inter-Connector 材として使われる鉛フリーはんだコートクラッドメタルを販売している。

12.住友ゴム工業 (5110)

74.0 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
3	15	10
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
9	16	21

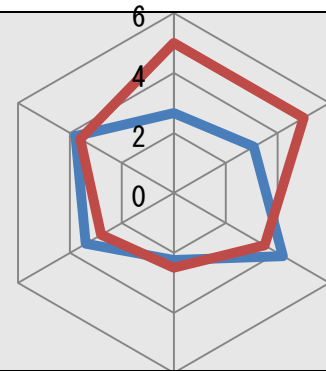


タイヤ国内2位。私たちにもなじみのある「ダンロップ」「ファルケン」といった商標を持つ。欧米ではグッドイヤーと合併。廃タイヤのリサイクルシステムの研究開発や、国内だけではなく海外の工場でも、ゼロエミッションに向けた取り組みを積極的にしている点を評価した。

13.豊田通商 (8015)

73.7 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	15	7
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
7.5	11.2	18

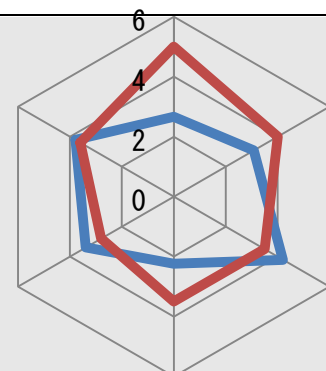


トヨタグループの総合商社で、2006年にトーメンと合併。リサイクル事業や風力発電事業にも出資している。特に、風力発電事業では、東京電力とユーラスエナジーホールディングスを設立し、世界各地で事業展開している。また、世界最大手の風力発電メーカーのヴェスタス社の日本現地法人に95%出資している。

14.パナホーム (1924)

73.7 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	12	7
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
10.5	11.2	18

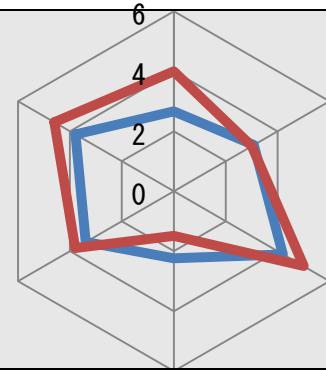


松下電器傘下の住宅会社、軽量鉄骨プレハブが主力。エコ住宅等グループ力生かした商品展開をしている。エコライフ住宅を積極的に宣伝し、太陽電池の導入はもちろんのこと、光触媒技術の導入もしている。

15.東レ (3402)

73.7 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
12	9	10
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
4.5	15.2	23

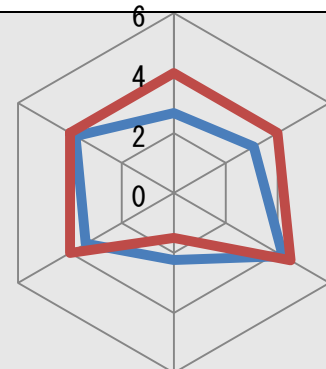


合繊最大手。高機能フィルム、生分解性樹脂など先端材料を強化。PAN系炭素繊維では世界首位である。環境事業も幅広く展開しており、世界各国で取り組みが評価され「環境ビジネスアワード」などの賞も多数受賞している。

16.東京応化工業 (4186)

73.5 点

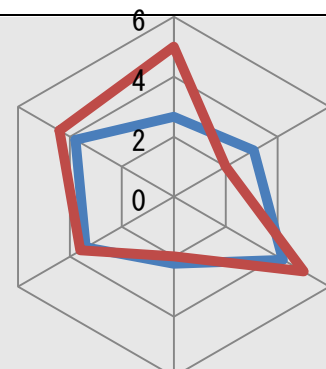
業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
12	12	9
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
4.5	16	20



半導体、液晶・プラズマパネル等FPD向けフォトレジスト首位。半導体、液晶製造装置も展開している。環境報告書のトップで、「大気」「土壌」「水」に与える汚染リスクという項目をあつかい、自社の生産活動における環境破壊のリスクをきちんと認識し、改善しようとしていた。

17.DOWAホールディングス (5714) 73.4 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	6	10
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
6	14.4	22

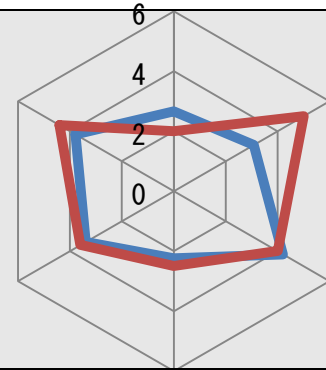


製錬・金属加工、電気・電子材料、環境・リサイクルが主力。磁性鉄粉が首位級である。DOWA エコシステムという事業会社を持ち、環境・リサイクル事業を大規模に展開している。金属リサイクルでは、長年の鉱山操業で培ってきた技術を生かし、パソコンの基板や携帯電話のスクラップ、廃家電など、さまざまな廃品からの有価金属回収を手がけている。また、廃棄物の処理でも日本最大級の最終処理施設を持つ。

18. 荏原製作所 (6361)

72.9 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
6	15	8
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
7.5	14.4	22

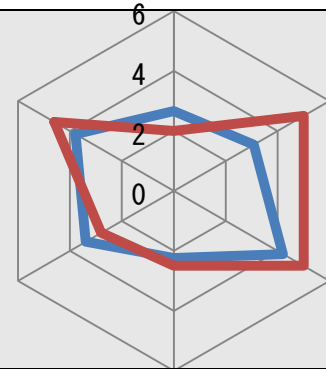


ポンプ・タービン等の風水力機械、浄水設備・排水処理装置等の環境装置・設備等を製造する会社。さまざまな環境分野に進出しており、風力発電装置、太陽光発電システム、発電のためのタービン、廃棄物リサイクル利用施設・装置、バイオマス利用施設・装置、燃料電池などの事業を展開している。

19. 豊田合成 (7282)

72.7 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
6	15	10
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
7.5	11.2	23

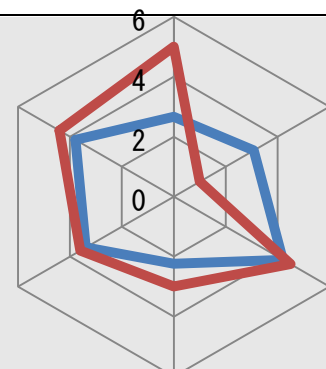


トヨタ系の合成樹脂、ゴム製品メーカー。非自動車分野についても、参入している。自動車部品のリサイクル設計・製品の開発、新規リサイクル技術の開発、リサイクル材の車両搭載を重点実施している。

20. トクヤマ (4043)

72.4 点

業績 × 3	割安感 × 3	広告 × 2
15	3	9
体制 × 3	社会責任 × 4	技術 × 5
9	14.4	22



ソーダ化学発祥で自家発電が強み。塩ビ国内大手、半導体用主体の多結晶シリコン世界2位級である。多結晶シリコンは、太陽電池、ソーラーパネルに必要な不可欠な主要材料である。

7. 運用結果

1月11日付

コード	銘柄名	上場市場	評価額 (円)
1924	パナホーム	東証1部	226,688
3402	東レ	東証1部	210,340
4004	昭和電工	東証1部	252,720
4043	トクヤマ	東証1部	183,360
4186	東京応化工業	東証1部	226,320
4204	積水化学工業	東証1部	271,287
5110	住友ゴム工業	東証1部	197,290
5333	日本碍子	東証1部	193,040
5486	日立金属	東証1部	228,696
5714	DOWAホールディングス	東証1部	223,938
6361	荏原製作所	東証1部	204,168
6472	NTN	東証1部	233,856
6674	ジーエス・ユアサ コーポレーション	東証1部	263,350
6752	松下電器産業	東証1部	265,680
6759	NEC トーキン	東証1部	258,084
6841	横河電機	東証1部	236,694
6995	東海理化電機製作所	東証1部	231,460
7282	豊田合成	東証1部	208,320
8015	豊田通商	東証1部	206,640
8053	住友商事	東証1部	227,104
合計投資金額			4,567,515

2007年12月02日～

MAX=5,105,705円

MIN=4,629,766円



8. まとめと感想

まず、私たちはこのコンテストを通して、さまざまな知識、観点を学ぶことができた。このことを、支えてくれた人、訪問した人、そしてこのコンテストの主催者の方々にこの場を借りて感謝したい。

ここに、5つの学んだことをまとめる。

1つ目は株に関する知識である。もともと株に興味は持っていたが、本質的な理解はしていなかった。しかし、今、このコンテストを通して、私たちは前に比べ、株に対する知識や理解が深まったと言える。

2つ目は長期投資に対する理解である。環境問題というテーマで、まだ市場としては未発達な部分も多くあり、企業の応援という観点に立って、長期株保有の必要性を強く感じる事が出来た。

3つ目は分散投資である。バーチャル投資で、株取引は経験していたが、あくまでも仮想のお金であるため、リスク管理をすることはできなかった。今回、そういった考えを改め、リスク分散の意味での分散投資の重要性を考える機会ができてよかった。

4つ目としては各株式ファンドの実態である。社会責任の評価のノウハウを学ぼうとして、各SRIファンドや環境ファンドに取材していくうちに、ファンドの企業評価の偏りを感じた。SRIファンドは、環境への取り組みばかりを評価し、製品自体の環境への影響を考慮していないし、環境ファンドは分野を決めているだけで、あとは業績の良さだけをみて投資先を決めているようだった。できるだけそれらの欠点を補うような評価方法を考えたが、やはり完璧にするのは難しかった。

5つ目は環境問題についてである。以前は、漠然とした不安や危機感を抱いていたのみであったが、本を読んだり、専門家のお話を伺ったりしたおかげで、深刻な状況を理解し、それを打破しようとする技術の革新を肌で実感することができた。

上記のように、学んだことはたくさんあったが、反省点もいくらかあった。その一つとして、投資先が東証一部に上場する大企業に偏ってしまったことが挙げられる。本来はより社会を活性化し、自分たちの影響力をより行使するために、中小企業に投資したかったが、結果的にはそうすることはできなかった。やはり、中小企業は大企業に比べて広報の不備により、投資するには情報が不足してしまった。ふりかえると、直接取材したりして中小企業についても実態を把握し、評価するべきであったと後悔している。

9. 参考文献

- ・「株式公開の知識」 加藤 昌春・松野 雄一郎 日経新聞社
- ・「インベストメント～米系バイサイド・アナリストの投資哲学と投資技法～」 山本 潤 北星堂書店
- ・「株式投資 , 長期投資で成功するための完全ガイド」 ジェレミー・シーゲル 日経BP社
- ・「トップファンドマネジャーの負けない株の黄金則」 藤野 英人 ビジネス社
- ・「これからの株は10年投資がいい！」 仁科 剛平 成美堂出版

- ・「新・地球環境ビジネス 2000-2001」 エコビジネスネットワーク 産学社
- ・「新・地球環境ビジネス 2003-2004」 エコビジネスネットワーク 産学社
- ・「新・地球環境ビジネス 2005-2006」 エコビジネスネットワーク 産学社
- ・「新・地球環境ビジネス 2007-2008」 エコビジネスネットワーク 産学社
- ・「環境の仕事大研究」 エコビジネスネットワーク 産学者
- ・「地球環境キーワード」 植田 和弘 有斐閣
- ・「対訳 ISO14001 環境マネジメントシステム」 吉澤 正 日本規格協会
- ・「ロングセラー技術のつくり方」 武末 高裕 ウェッジ
- ・「屋上緑化 完全ガイド」 船瀬 俊介 築地書館
- ・「自然エネルギー市場—新しいエネルギー社会のすがた」 飯田 哲也 築地書館
- ・「なるほど図解排出権のしくみ」 大串 卓矢 中央経済社
- ・「拡大する土壌・地下水汚染 , 土壌汚染対策法と汚染の現実」 畑 明郎 世界思想社
- ・「環境報告書の理論と実際—環境情報開示をどう進めるか」
国部 克彦・富増 和彦・資源リサイクルシステムセンター 省エネルギーセンター
- ・「新エネルギー・創造から普及へ」 駒橋 徐 日刊工業新聞社
- ・「広域大気汚染—そのメカニズムから植物への影響まで—」 若松 伸司・篠崎 光夫 裳華房
- ・「サステナビリティ辞典 2007」 三橋規宏 海象社
- ・「環境ソリューション企業総覧 V o l . 7 (2 0 0 7 年度版)」 日刊工業出版プロダクション 日刊工業新聞社
- ・「最新株式テーマがわかる企業と業界地図」 大和証券投資情報室 日本実業出版社
- ・「図解 業界地図が一目でわかる本 最新 2008 年版」 ビジネスリサーチ・ジャパン 三笠書房
- ・「日経業界地図 2 0 0 8 年版」 日本経済新聞社 日本経済新聞出版社
- ・「会社四季報業界地図 2 0 0 8 年版」 東洋経済新報社 東洋経済新報社
- ・「会社四季報 2007 秋」 東洋経済新報社 東洋経済新報社
- ・「日経会社情報」 日本経済新聞社 日本経済新聞出版社
- ・ダイヘン www.daihen.co.jp/ ・ CSR 報告書
- ・NEC トーキン <http://www.nec-tokin.com/> ・ CSR 報告書
- ・アイシン精機 <http://www.aisin.co.jp/> ・ CSR 報告書
- ・トヨタ自動車 <http://www.toyota.co.jp/> ・ CSR 報告書
- ・旭化成 www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/ ・ CSR 報告書
- ・宇部興産 www.ube-ind.co.jp/ ・ CSR 報告書
- ・横河電機 www.yokogawa.co.jp/ ・ CSR 報告書
- ・松下電器産業 panasonic.co.jp/ ・ CSR 報告書
- ・積水化学工業 www.sekisui.co.jp/ ・ CSR 報告書
- ・大和ハウス工業 www.daiwhouse.co.jp/ ・ CSR 報告書
- ・第一工業製薬 www.dks-web.co.jp/ ・ CSR 報告書
- ・帝人 www.teijin.co.jp/ ・ CSR 報告書
- ・東洋インキ製造 www.toyoink.co.jp/ ・ CSR 報告書

- ・ 日本化学工業 www.nippon-chem.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 日本化薬 www.nipponkayaku.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 不二サッシ www.fujisash.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 豊田通商 www.toyota-tsusho.com/ ・ CSR報告書
- ・ 富士電機ホールディングス www.fujielectric.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 富士フィルム fujifilm.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 日立マクセル www.maxell.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 五洋建設 www.penta-ocean.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 日本碍子 www.ngk.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 凸版印刷 www.toppan.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 東洋紡 www.toyobo.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 中部電力 www.chuden.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 積水ハウス www.sekisuihouse.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 新神戸電機 www.shinkobe-denki.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 松下電工 www.mew.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 三菱電機 www.mitsubishielectric.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 三菱マテリアル www.mmc.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 三菱ケミカルホールディングス www.mitsubishichem-hd.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 三井化学 www.mitsui-chem.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 古河機械金属 www.furukawakk.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ ユニチカ www.unitika.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ DOWA ホールディングス www.dowa.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ ジーエス・ユアサコーポレーション www.gs-yuasa.com/ ・ CSR報告書
- ・ NEC www.nec.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ NTN www.ntn.co.jp/japan/ ・ CSR報告書
- ・ スズキ www.suzuki.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ ゼファー www.zephyr.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ マツダ www.mazda.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ ミサワホーム www.misawa.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 荏原製作所 www.ebara.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 関西ペイント www.kansai.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 関東電化工業 www.kantodenka.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 岩谷産業 www.iwatani.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 京セラ www.kyocera.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 三井ホーム www.mitsuihome.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 三協・立山ホールディングス www.sthdg.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 住友大阪セメント www.soc.co.jp/ ・ CSR報告書
- ・ 日立金属 www.hitachi-metals.co.jp/ ・ CSR報告書

- ・日立造船 www.hitachizosen.co.jp/ ・CSR報告書
- ・良品計画 ryohin-keikaku.jp/ ・CSR報告書
- ・IHI www.ihico.jp/ ・CSR報告書
- ・カネカ www.kaneka.co.jp/ ・CSR報告書
- ・キューピー www.kewpie.co.jp/ ・CSR報告書
- ・ダイキン工業 www.daikin.co.jp/ ・CSR報告書
- ・パナホーム www.panahome.jp/ ・CSR報告書
- ・ブリヂストン www.bridgestone.co.jp/ ・CSR報告書
- ・ヤマハ発動機 www.yamaha-motor.co.jp/ ・CSR報告書
- ・三菱商事 www.mitsubishicorp.com/jp/ ・CSR報告書
- ・住友商事 www.sumitomocorp.co.jp/ ・CSR報告書
- ・神戸製鋼所 www.kobelco.co.jp/ ・CSR報告書
- ・日本製鋼所 www.jsw.co.jp/ ・CSR報告書
- ・豊田合成 www.toyoda-gosei.co.jp/ ・CSR報告書
- ・ジェイ エフ イー ホールディングス www.jfe-holdings.co.jp/ ・CSR報告書
- ・シャープ www.sharp.co.jp/ ・CSR報告書
- ・エス・バイ・エル www.sxl.co.jp/ ・CSR報告書
- ・ガイアックス www.gaiax.co.jp/ ・CSR報告書
- ・トクヤマ www.tokuyama.co.jp/ ・CSR報告書
- ・ホンダ www.honda.co.jp/ ・CSR報告書
- ・王子製紙 www.ojipaper.co.jp/ ・CSR報告書
- ・三菱重工業 www.mhic.co.jp/ ・CSR報告書
- ・三菱地所 www.mecsumai.com/ ・CSR報告書
- ・住友ゴム www.srigroup.co.jp/ ・CSR報告書
- ・昭和電工 www.sdk.co.jp/ ・CSR報告書
- ・東レ www.toray.co.jp/ ・CSR報告書
- ・東京応化工業 www.tok.co.jp/ ・CSR報告書
- ・日本ゼオン www.zeon.co.jp/ ・CSR報告書
- ・日本製紙グループ www.np-g.com/ ・CSR報告書
- ・新日本石油 www.eneos.co.jp/ ・CSR報告書
- ・明電舎 www.meidensha.co.jp/ ・CSR報告書
- ・東海理化電機製作所 www.tokai-rika.co.jp/ ・CSR報告書
- ・東邦チタニウム www.toho-titanium.co.jp/
- ・昭和シェル石油 www.showa-shell.co.jp/
- ・MSK www.msk.ne.jp/
- ・トヤマキカイ www.toyamakk.ecnet.jp/
- ・ラプラスシステム www.lapsys.co.jp/
- ・信越化学工業 www.shinetsu.co.jp/j/

- ・ チッソ www.chisso.co.jp/
- ・ ペクセルテクノロジーズ www.peccell.com/
- ・ ユニオンマテリアル www.optronics.co.jp/bo/corp.php?refer=&key=1558
- ・ SUMCO www.sumcosi.com/
- ・ 三菱製紙 web.infoweb.ne.jp/mpm/
- ・ フジクラ www.fujikura.co.jp/
- ・ 古河機械 www.furukawakk.co.jp/
- ・ 石井表記 www.ishiihyoki.co.jp/
- ・ 東芝セラミックス www.covalent.co.jp/ - 9k
- ・ ホンダソルテック www.honda.co.jp/soltec/
- ・ アルパック www.arpak.co.jp/
- ・ 日平トヤマ www.nippeitoyama.co.jp/
- ・ 住友金属鉱山 www.smm.co.jp/
- ・ 伊勢化学工業 www.isechem.co.jp/
- ・ 三洋電機 www.sanyo.co.jp/
- ・ 富士電機システムズ www.fesys.co.jp/
- ・ 安永 www.fine-yasunaga.co.jp/
- ・ トッキ www.tokki.co.jp/
- ・ 東京電力 www.tepco.co.jp/
- ・ 九電工 www.kyudenko.co.jp/
- ・ ミツウロコ www.mitsuuroko.co.jp/
- ・ 日本風力開発 www.jwd.co.jp/
- ・ 日本精鉱 www.nihonseiko.co.jp/
- ・ 日本カーボンファイナンス www.jbic.de/contents3/JCF/JCF-JP-050216.pdf
- ・ 河西工業 www.kasai.co.jp/
- ・ 住友電設 www.sem.co.jp/
- ・ 新日本製鐵 www.nsc.co.jp/
- ・ 松尾橋梁 www.matsuo-bridge.co.jp/
- ・ 日本鑄造 www.nipponchuzo.co.jp/
- ・ ナブテスコ www.nabtesco.com/
- ・ シグナスミル www.cygnusmill.co.jp/
- ・ クボタ www.kubota.co.jp
- ・ 田中水力機械製作所 www1.ttcn.ne.jp/tanaka/
- ・ カルソニックカンセイ www.calsonickansei.co.jp/
- ・ ハナテン www.8710.co.jp/
- ・ テラボウ www.terabo.co.jp/
- ・ 旭硝子 www.agc.co.jp
- ・ ファーストエスコ www.fesco.co.jp/ir/index.html

- ・ 東セロ www.tohcello.co.jp/
- ・ フジタ www.fujita.co.jp/
- ・ 菊水化学工業 www.kikusui-chem.co.jp/
- ・ ノザワ www.nozawa-kobe.co.jp/
- ・ アジア航測 www.ajiko.co.jp/
- ・ 省電舎 www.shodensya.com/
- ・ アミタ www.amita-net.co.jp/
- ・ 北海道エコリサイクルシステムズ www.go-hers.co.jp/
- ・ 鈴木商会 www.suzuki-shokai.co.jp/
- ・ 東北東京鉄鋼 www.jabia.or.jp/kyouryoku/data/touhokutoukyoutekkou.html
- ・ 東日本リサイクルシステムズ www.ejrs.co.jp/
- ・ エコリサイクル www.dowa-eco.co.jp/network/ecorecycle.html
- ・ 釜屋 www.kamaya-net.co.jp/
- ・ 関東エコテクノロジー
- ・ NNY www.nnycorp.jp/
- ・ 中田屋 www.ndy.co.jp/
- ・ ハイパーサイクルシステムズ www.h-rc.co.jp/
- ・ フェニックスメタル www.pmc.to/
- ・ フューチャー・エコロジー www.f-eco.co.jp/
- ・ テルム www.term-g.co.jp/
- ・ JFE アーバンリサイクル www.urrec.co.jp/
- ・ 豊和商事 www.howasyoji.co.jp/
- ・ ハリタ金属 www.harita.co.jp/
- ・ 富士エコサイクル www.fujitsu-general.com/jp/
- ・ グリーンサイクル www.greenc.co.jp/
- ・ 豊田メタル www.toyotametal.com/
- ・ トーエイ www.toei-eco.co.jp/
- ・ サニーメタル www.sunny-metal.co.jp/
- ・ 関西リサイクルシステムズ www.krsc.co.jp/
- ・ 松下エコテクノロジーセンター panasonic.co.jp/eco/metec/
- ・ アール・ビー・エヌ www.assist-ad.com/portfolio/rbn/company/index.html
- ・ 平林金属 www.hirakin.co.jp/
- ・ 九州メタル産業 www.nishitetsu.ne.jp/kyusyumetal/
- ・ 西日本家電リサイクル www.nkrc.co.jp/
- ・ 熊本新明産業 homepage1.nifty.com/kuma-shinmei/
- ・ アクトビーリサイクリング www.act-b.co.jp/
- ・ 太信鉄源 www.taishin.info/
- ・ 荒川商店 arakawa.cc/

- ・ 拓南商事 www.takunan.co.jp/takunanshoji/index.html
- ・ ヤマトマテリアル www.yamato-material.co.jp/
- ・ 瀧川化学工業 www.takigawakagaku.co.jp/
- ・ ソフマップ www.sofmap.com/
- ・ テンポスバスターズ www.tenpos.co.jp/
- ・ 東京山喜 www.huemec.co.jp/melmag_backnm/vip_backnum/vip_4.html
- ・ 長谷エアネシス www.haseko.co.jp/ha/
- ・ アンティーク山本商店 www.ntv.co.jp/burari/011020/info03.html
- ・ ミスターコンセント mr.consent.jp/
- ・ エイデン www.eiden.co.jp/
- ・ GAIA www.gaia-np.com/ -
- ・ ボディショップ www.the-body-shop.co.jp/
- ・ ナチュラルローソン www.natural-lawson.co.jp/
- ・ カタログハウス www.cataloghouse.co.jp/
- ・ WWF www.wwf.or.jp/
- ・ ムトウ www.mutow.co.jp/
- ・ フェリシモ www.felissimo.co.jp/
- ・ セシール www.cecile.co.jp/
- ・ ハードオフ www.hardoff.co.jp/
- ・ ゲオ www.geogp.com/
- ・ ブックオフ www.bookoff.co.jp/
- ・ フォー・ユー www.foryou-inc.co.jp/
- ・ まんだらけ www.mandarake.co.jp/
- ・ アップガレージ www.upgarage.com/
- ・ テイツー www.tay2.co.jp/
- ・ ランシステム www.runsystem.co.jp/
- ・ イーユーピー eco.pref.yamaguchi.lg.jp/ecocycle/plan/ecofactorypdf/epu.pdf
- ・ ジャパン・リサイクル www.recyclejapan.jp/
- ・ 水島エコワークス www.eco-works.co.jp/
- ・ カムテックス www.kamtecs.co.jp/
- ・ 関商店 www.rpf-seki.co.jp/
- ・ スパック www.spac-package.co.jp/
- ・ ダイヤフーズ www.diafoods.co.jp/
- ・ 帝人ファイバー www.teijinfiber.com/
- ・ ペットリバーズ www.kpr.jp/ -
- ・ パタゴニア www.patagonia.com/web/jp/
- ・ JFE スチール www.jfe-steel.co.jp/
- ・ 神戸製鋼 www.kobelco.co.jp/

- ・ 歴世礦油新潟油化センター www.jalos.or.jp/
- ・ 札幌プラスチックリサイクル www.sapporo-recycle.co.jp/
- ・ 道央油化センター www.kuniya-net.com/
- ・ 栗原鐵工所 <http://www7.ocn.ne.jp/~kuritetu/>
- ・ アーステクニカ www.earthtechnica.co.jp/ -
- ・ 東京製鐵 www.tokyosteel.co.jp/
- ・ DOWA エコシステム www.dowa-eco.co.jp/
- ・ アサヒプリテック www.asahipretec.com/
- ・ 新興化学工業 www.shinko-chem.co.jp/
- ・ 日本新金属 www.jnm.co.jp/
- ・ コアレックス・グループ www.corelex.jp/
- ・ 日本大昭和板紙 www.nichidaiita.co.jp/
- ・ フジタ www.fujita.co.jp/
- ・ 王子特殊紙 www.ojispecialtypaper.co.jp/
- ・ JFE 環境ソリューションズ www.jfe-kansol.co.jp/
- ・ 北越製紙 www.hokuetsu-paper.co.jp/
- ・ ナカノ www.nakano-inter.co.jp/
- ・ 門倉貿易 www.kadoco.co.jp/
- ・ コメ兵 www.komehyo.co.jp/
- ・ <http://www.rieti.go.jp/jp/publications/pap/05a001.pdf>
- ・ <http://eco.goo.ne.jp/business/keiei/solution07/>